第 II 部 経済の仕組み

第9章

一次産品

• • •

“――歴史的な要因のほかにも，ラテンアメリカが一次産品輸出によって持続的な経済成長を達成することができなかった構造的な要因がある。豊富な天然資源があるにもかかわらず，経済発展ができないことを資源の呪い（resource course）や豊かさの逆説（paradox of plenty）と呼ぶ。資源が豊かであるがゆえにさまざまな問題が生じ，経済発展が妨げられるという意味である。”

（本文第3節より）

〈第９章 扉写真〉
チリ・ロスペランブレスの露天掘り銅鉱山
写真：アフロ

経済発展における一次産品の役割

ラテンアメリカは一次産品が豊富な地域である。鉄・銅・鉛をはじめとした鉱物や石油・天然ガスなどの化石燃料といった地下資源のほか，広大な農地や海域が生み出す農林水産資源を有している。ラテンアメリカ諸国が輸出するこれらの一次産品は，世界のなかで大きな割合を占める。

19世紀の独立以降，ラテンアメリカ諸国は一次産品を輸出して工業製品を輸入する一次産品輸出経済による経済発展を目指した。しかし国際市場の変化や，一次産品が豊富なゆえに生じる問題である「資源の呪い」のために経済が停滞した。各国は輸入代替工業化政策を導入することで国内産業の振興を図ったが，対外債務危機の影響もあり，期待されていた成果はあげられなかった。

1980年代からの経済改革を経て，2000年代には豊かな一次産品をベースとした輸出に再び注目が集まった。ラテンアメリカ諸国は，新興国による需要増加を背景にした資源ブームによって輸出を増やしたほか，関連産業を興して輸出産品の付加価値を高めることで経済発展を目指している。

◉学習目標

・世界の一次産品供給におけるラテンアメリカの重要性を認識する。

・一次産品輸出経済が持続的な経済成長につながらなかった理由を理解する。

・一次産品を基盤とした今日の経済発展の取り組みを説明できる。

◉キーワード

一次産品　一次産品輸出経済　資源の呪い　資源ブーム　バリューチェーン

1 世界に資源を供給するラテンアメリカ

世界のなかでもラテンアメリカは一次産品が豊富に存在する地域である。一次産品には，鉱産物や化石燃料（石油・天然ガス）などの地下から得られる資源や，農林水産品などの農地や海域から得られる資源がある。

表9-1に世界の埋蔵量と生産量に占めるラテンアメリカ主要国の割合を示した。鉱物資源については，ブラジル，アンデス諸国（ボリビア，チリ，ペルー），メキシコが主要生産国である。なかでも銅については，チリ，ペルー，メキシコの生産量が多く，3カ国を合わせると世界の4割を超えている。このほか，ブラジルは鉄やボーキサイト，ペルーとメキシコは亜鉛や鉛で主要生産国の位置を占めている。

表9-1　世界の埋蔵量と生産量に占めるラテンアメリカ主要国の割合（2020年）

	国	鉄	銅	亜鉛	鉛	ボーキサイト	リチウム	石油	天然ガス
埋蔵量	アルゼンチン						3.6%	0.1%	0.2%
	ボリビア			1.9%	1.8%				0.1%
	ブラジル	17.9%				9.0%	0.5%	0.7%	0.2%
	チリ		23.0%				43.8%		
	コロンビア							0.1%	
	エクアドル							0.1%	
	メキシコ		6.1%	8.8%	6.4%			0.4%	
	ペルー	1.8%	10.6%	8.0%	6.8%				0.1%
	ベネズエラ							17.5%	3.3%
生産量	アルゼンチン						7.6%	0.7%	1.0%
	ボリビア			2.8%	1.5%				0.4%
	ブラジル	16.8%				9.4%	2.3%	3.8%	0.6%
	チリ	0.9%	28.5%				22.0%		
	コロンビア							1.0%	0.3%
	エクアドル							0.6%	
	メキシコ		3.5%	5.0%	5.5%			2.3%	
	ペルー	1.0%	11.0%	10.0%	5.5%			0.1%	0.3%
	ベネズエラ							0.7%	0.5%

（出所）鉱物はUSGS Mineral Commodity Summaries 2021，石油と天然ガスはBP2021.
（注）0.1%以上のみを表示，5%以上をハイライトした。

また，近年需要が高まるリチウムイオン電池の電極（正極）として用いられるリチウムは，チリとアルゼンチンが主要生産国となっているほか，ボリビアも生産を始めている。これらの鉱物資源を開発・輸出するのは欧米の多国籍企業が多いが，銅輸出で世界最大のコデルコ（CODELCO）はチリの国営企業であり，おもに鉄鉱石を輸出するブラジルのヴァーレ（Vale）も1997年に民営化されるまでは国営企業であった。

化石燃料のうち石油の確認埋蔵量は，ベネズエラが世界の17.5%を占めており，サウジアラビアを上回り世界最大である。ベネズエラは国内の政治・経済の危機により現在の生産量は低迷しているが，潜在的には石油大国である。同国に代わって現在ラテンアメリカ最大の産油国となっているのがブラジルで，2000年代に入って海底油田の開発が進み生産量が大きく増えた。このほかにもメキシコ，コロンビア，アルゼンチン，エクアドルなどが石油を輸出している。世界の埋蔵量や生産量に占める割合は小さいものの，各国の輸出総額に占める石油の割合は大きく，コロンビアとエクアドルは27%，ブラジルは11%，メキシコは5%（いずれも2021年）となっている。天然ガスについてもいくつかの国が生産しているが，消費量が生産量を上回るブラジルとアルゼンチンが輸入する一方で，ボリビアやペルーは輸出している。

化石燃料の生産・輸出は1980年代まではおもに国営企業が担っていたが，1990年代に入って国営企業の民営化や民間企業の参入が進んだ。2000年代に入って石油価格が上昇すると，一部の国では民営化された企業を再国営化した（岡田 2015）。現在は，ベネズエラのPDVSA，ブラジルのPETROBRAS，メキシコのPEMEX，コロンビアのECOPETROL，アルゼンチンのYPFなど国が一部または全部を所有する企業のほか，民間企業も開発，生産，輸出を担っている。

農林水産物については，ラテンアメリカは広大な農地や海域を有し，生産量の多くを輸出している。世界の農産品輸出に占めるラテンアメリカ主要国の割合を見ることで，その重要性を確認できる（表9-2）。

品目別に見ると，大豆ではブラジルやアルゼンチンなどを中心とする南米５カ国の輸出が世界の6割を超えている。大豆粒のほか，これを絞って得られる大豆油と大豆粕（家畜の飼料原料に用いられる）としても輸出している。このほか，オレンジジュース，粗糖（サトウキビから得られる精製前の砂糖），トウモロコシ，コ

表9-2　世界の輸出量に占めるラテンアメリカ主要国の割合（2019年）

	大豆（粒・粕・油）	オレンジジュース	粗糖	トウモロコシ	コーヒー	牛肉	鶏肉	綿花	カカオ
アルゼンチン	17.7%	0.3%	0.4%	19.6%		7.3%	1.6%	1.0%	
ボリビア	0.9%								
ブラジル	38.6%	51.1%	47.0%	23.3%	28.3%	21.1%	27.1%	17.9%	
チリ						0.1%	0.8%		
コロンビア			0.6%		9.6%	0.3%			0.2%
エクアドル									6.6%
メキシコ		0.4%	2.8%	0.4%	1.2%	2.1%		0.8%	
パラグアイ	3.3%		0.2%	1.6%		3.4%			
ペルー			0.3%		2.9%				1.5%
ウルグアイ	1.3%					3.8%			
ベネズエラ									0.4%
上記国合計	61.8%	51.9%	51.2%	44.9%	42.0%	38.0%	29.6%	19.7%	8.7%

（出所）FAOSTAT Data.
（注）0.1%以上のみを表示，5%以上をハイライトした。

ーヒーのほか，牛肉や鶏肉の輸出も多い。国別に見るとブラジルがほとんどの品目で大きな割合を占めており，世界でも重要な食料供給国の1つである。この表に挙げた品目のほかにも，生鮮果物・野菜，ワイン，養殖サーモンなどで，メキシコやチリが主要輸出国となっている。このようにラテンアメリカの一次産品は現代の私たちの豊かな暮らしには欠かせない。

2　一次産品輸出経済による成長

豊かな天然資源を抱えながらもラテンアメリカ諸国は持続的な経済成長を遂げることができなかった。それはなぜだろうか。20世紀のラテンアメリカを振り返ることで，その理由を考えよう。

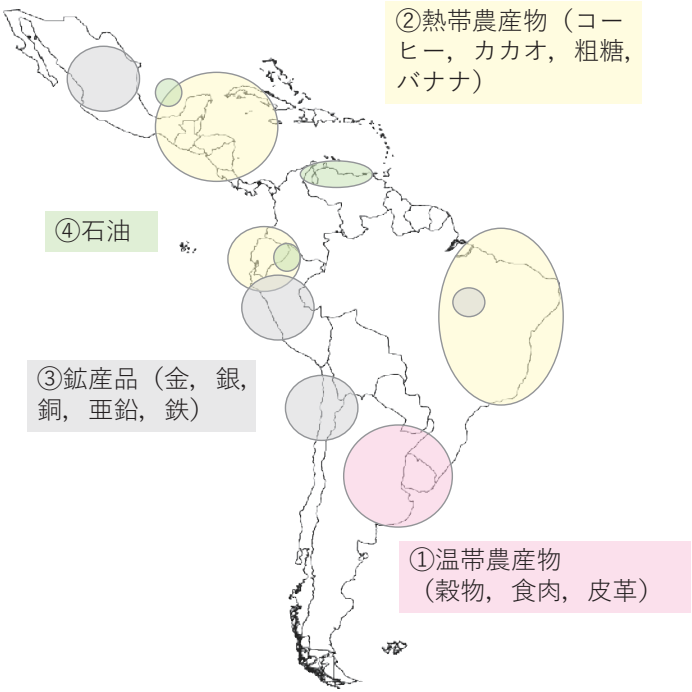
石油・天然ガス，鉱石，農林水産品などの天然資源を，高度な加工をしないで輸出することを一次産品輸出と呼ぶ。欧米諸国では19世紀までに産業革命が進行し，工業原料や食料として一次産品への需要が高まった。19世紀前半に独立したラテンアメリカ諸国は，欧米諸国に向けて自国の豊かな天然資源をもとにした一

次産品を輸出し，その収入で工業製品を輸入して成長した。このように一次産品輸出の拡大で成長を目指す経済を**一次産品輸出経済**という。

ラテンアメリカからの一次産品輸出は大きく4つに分けられる（図9-1）。1つ目は温帯農産物で，代表的な例がブラジル，アルゼンチン，ウルグアイの穀物，食肉，皮革である。2つ目は熱帯農産物で，ブラジル，コロンビア，エクアドルのコーヒー，カカオ，粗糖，バナナである。3つ目は鉱産品で，メキシコ，ペルー，チリ，ブラジルなどの金，銀，銅，亜鉛，鉄である。4つ目はベネズエラ，メキシコ，エクアドルの石油である。

一次産品輸出の拡大によって19世紀後半から経済が成長した代表例がアルゼンチンである。同国は農業に適した広大な国土にイタリアやスペインからの数多くの移民を受け入れたことで，農業生産力が大きく拡大した。またおもにイギリ

図9-1　おもな一次産品と産地



（出所）宇佐見ほか（2009），11, 75をもとに筆者作成。

スからの投資を受け入れて農産物の産地から港まで鉄道を敷設し，帆船に代わって大きくて鋼鉄製の蒸気船を導入したことで，年間を通してより多くの貨物を運べるようになり，輸送コストを下げた。さらに冷凍・冷蔵工場の建設や冷凍・冷蔵船の導入を進め，生鮮食肉を欧州に輸出した。その結果，牛肉，皮革，小麦などの生産と欧州向けの輸出が増加し経済成長を達成した。1900年の1人当たりGDPは4583ドルと，米国（8038ドル）やイギリス（7594ドル）には及ばないものの，フランス（4584ドル）とほぼ同水準で，日本（2123ドル）を大きく上回る世界でも有数の富裕国となった[1)]（「第11章 経済成長」を参照）。

3 資源の呪い

ラテンアメリカ諸国は20世紀の初めまで一次産品の輸出によって成長を遂げたものの，その後は持続的な経済成長を達成することはできなかった。その最大の要因が1929年に始まった世界恐慌である。これによって世界の景気が後退し，ラテンアメリカが輸出する一次産品への需要が縮小したほか，イギリスやフランスなどが自国と植民地の間でブロック経済化を進めたために，自由な貿易が妨げられた。また，イギリスに代わる経済大国となった米国は工業大国であると同時に農業大国でもあったため，イギリスほどラテンアメリカの一次産品を必要としなかった。

このような歴史的な要因のほかにも，ラテンアメリカが一次産品輸出によって持続的な経済成長を達成することができなかった構造的な要因がある。豊富な天然資源があるにもかかわらず，経済発展ができないことを**資源の呪い**（resource course）や豊かさの逆説（paradox of plenty）と呼ぶ。資源が豊かであるがゆえにさまざまな問題が生じ，経済発展が妨げられるという意味である。一次産品輸出経済の問題として，具体的には次のような点が指摘されている。

1つ目は，一国の経済が数少ない輸出産品へ依存すること（モノカルチャー経済）によって生じる不安定性である。ラテンアメリカが輸出する鉱産物や農産物は，コ

1）長期経済統計を収集するマジソン・プロジェクトのデータによる。

モディティと呼ばれる国際市場で取引される商品である。コモディティの価格は国際市場における需給の変化によって大きく変化する。そのため，価格が上昇すると輸出収入が増加する一方で，下落すると減少し，国家経済に大きな影響を与える。輸出収入が減少すれば鉱山企業が国に支払う法人税やロイヤリティが減少する。政府は見込みどおりに財政収入を確保できなくなり，公共事業を縮小せざるを得なくなる。鉱山企業で働く労働者や，鉱山企業に資材やサービスを提供するサプライヤーの収入も減少し，景気が後退する。このように，国際市場の価格変動が経済全体に大きな影響を与えるため，安定した経済成長が難しくなる。

2つ目は，ラテンアメリカが輸出する一次産品と欧米諸国から輸入する工業製品の需要の特徴の違いである。これについては，「第14章 経済史」で**プレビッシュ＝シンガー命題**として取り上げた。簡潔に説明すれば，経済発展によって所得水準が向上しても食料品などの一次産品の需要の増加は限られる。一方で，家電製品や自動車などの工業製品の需要は所得の向上にともなってますます増える。そのため，工業製品に対する一次産品の価値が相対的に下落する。輸出品と輸入品の交換比率を交易条件と呼ぶが，ラテンアメリカ諸国が一次産品輸出への依存を続けると交易条件が悪化し，経済発展が妨げられるという主張である。

3つ目は，一次産品輸出の増加が為替レートの変化を通して他部門の輸出を阻害する問題である。これは，1960 ～ 70年代にオランダが天然ガス輸出を増やしたために製造業が衰退したことにちなんで**オランダ病**と呼ばれている。

その仕組みを表9-3で説明しよう。天然ガス輸出によって為替レートが1ドル＝4ギルダー（ギルダーはユーロ導入以前のオランダの通貨単位）から，1ドル＝3ギルダーに切り上がったとしよう（表9-3の①）。これは1ギルダーの価値が0.25ドルから0.33ドルへ上がったのと同じことである。ギルダーの為替レートが切り上がるのは，輸出企業が天然ガスの輸出によって得たドルをオランダ国内で使うために，ドルを売ってギルダーを買うからである。

このような為替レートの変化は，輸入する外国産工業製品の国内価格と，輸出するオランダ産工業製品の国際価格に影響する。1000ドルの外国産工業製品の国内価格は，為替レートが変化したことで4000ギルダーから3000ギルダーに下落する（表9-3の②）。一方で4000ギルダーのオランダ産工業製品の国際市場での価格は，1000ドルから1333ドルに上昇する（表9-3の③）。そうすると，国内市場で

表9-3　為替レート上昇の影響（オランダ病）

為替レート	外国産工業製品 (US$ 1,000) の国内価格	オランダ産工業製品 (NLG 4,000) の国際価格
US$ 1.00 = NLG 4.00	NLG 4,000	US$1,000
⬇	⬇	⬇
US$ 1.00 = NLG 3.00	NLG 3,000	US$1,333
①資源輸出の増加でギルダーの価値が上昇	②国内市場で外国産工業製品が安くなる	③国際市場でオランダ産工業製品が高くなる

（出所）筆者作成。
（注）NLGはオランダ・ギルダー（2002年までの同国の通貨，レートは仮定）。

は外国産工業製品が安くなり，国際市場ではオランダ産工業製品が高くなる。この結果，国内外でオランダ産工業製品の価格競争力が低下し，オランダの工業部門が衰退する[2)]。

経済的な要因以外にも，社会の仕組みや産業構造などの観点からも豊富な天然資源は経済発展の妨げとなり得る（Armendáriz and Larraín 2017, 15）。たとえば国家の歳入を税収に依存する国では，国民は自らが納めた税金を政府が適切に支出しているかを監視しようとする。一方で国家の歳入を一次産品輸出に依存する国では，税金を納めない国民の財政支出に対する関心が低くなり汚職などが発生しやすい。そのために公共投資による経済インフラの整備が進みにくく，経済発展が難しくなる。また，天然資源の輸出は国に大きな収入をもたらすが，その支配を巡って政治的な対立が生まれ，紛争や戦争につながることも多い。

このほか，北米と南米を比較して，その経済構造の違いが国内市場の発展の違いを生んだという研究もある（アセモグル・ロビンソン 2013）。北米の場合，欧州からの移民が農牧業を営み，それぞれの生産者が徐々に豊かになり中間層となった。中間層の拡大は，工業製品をはじめとするさまざまな財への需要拡大につながり，国内産業が発展して経済発展へとつながった。それに対して南米では，鉱山やプランテーションが発達した。これらは規模が大きいほど有利なため，少数の大規模な企業に生産が集中した。ここでは，少数の所有者・経営者に対して，多数の労働者が生まれた。所有者・経営者と労働者の格差は大きく，北米のような

2）オランダ病は為替レートの変化以外にも，国内の資本や労働が工業部門から資源部門へと移動することでも説明できる。詳しくは西島・小池（2011, 127）を参照。

中間層が生まれなかった。そのため，工業製品などに対する需要が増えず，国内市場が拡大しなかった。

4　一次産品を基盤とした経済発展

それではラテンアメリカ諸国は，資源の呪いのために今後も一次産品の輸出では経済発展ができないのだろうか。これを考える際にヒントになるのが，一次産品の輸出で経済発展を達成したカナダ，オーストラリア，ノルウェーなどの国々である。ラテンアメリカでは，チリも一次産品輸出によってある程度の経済発展を達成した国として知られている。非営利団体である天然資源ガバナンス研究所（Natural Resource Governance Institute: NRGI）や世界銀行などは，上記の国々の事例をもとに，経済発展の助けとなる天然資源の管理方法を天然資源憲章（The Natural Resource Charter）としてまとめ，これから開発に取り組む国に対して指針を示すとともに，現在開発を進めている国（ラテンアメリカでは，コロンビア，メキシコ，ペルー）の取り組みをモニタリングしている。

天然資源憲章によれば，天然資源を開発して輸出した利益を持続的な経済成長に結びつけるためには，開発の各段階において政府はさまざまな点を考慮する必要がある。たとえば，天然資源の開発を民間企業に任せる場合には，契約の内容を公開することを勧めている。それは，市民組織などが契約の内容を確認し，特定の企業に有利な条件になっていないかを確認することで汚職を防止できるからである。また，国営企業が資源開発を担う場合には，社会開発等の本業以外の事業には従事せず，資源開発に専念することで効率的な経営を維持できる。このほか，天然資源開発に伴う地元の社会・経済・環境への悪影響を最小化するだけでなく，資源開発に必要な道路や鉄道などのインフラについては，地元社会も受益できるように設計することで，開発による悪影響をある程度は軽減することができる。

このほか，一次産品安定化基金の設立が重要である。これは，資源価格が高くて輸出からの財政収入が大きいときに，財政黒字分を蓄えておく基金である。資源価格が下落して輸出からの財政収入が減少した際には，この基金を取り崩して

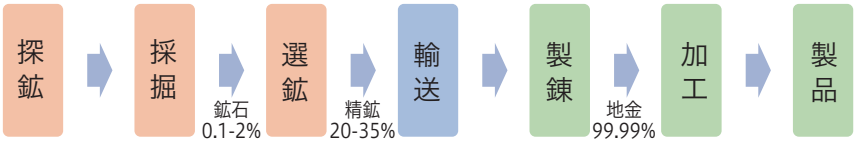
財政を補填できる。チリは，銅輸出による財政収入の一部を「経済社会安定化基金」と「年金準備基金」として蓄えることで銅価格が低下したときに備えている。ラテンアメリカ諸国における天然資源の管理方法は改善しており，前節で指摘したような一次産品輸出経済の問題点は少しずつ解消しつつある。

5 高付加価値一次産品輸出

2000年代の後半から2010年代の初めにかけて，国際市場で一次産品価格が上昇する**資源ブーム**が起きた。中国をはじめとする新興国の経済成長によって，一次産品に対する需要が増えたためである。これにより一次産品が輸出の多くを占めるラテンアメリカ諸国は，順調な経済成長を遂げた。しかし，限られた数の一次産品輸出に依存することで経済が不安定になる問題は解消していない。2010年代半ばに資源ブームが終わると，ラテンアメリカ各国の経済成長にもブレーキがかかった。そこで各国は，一次産品をベースにしながらも，国内で加工するなどその価値を高め，関連産業を振興することで経済発展を目指している（星野 2007）。

企業や産業の発展を分析する方法の1つに**バリューチェーン**分析がある。製品の生産から消費に至る一連の経済活動をバリューチェーンとして理解し，川の流れにたとえて，生産を上流，消費を下流に位置づける。これまでの一次産品輸出は，鉱物資源の採掘や農産品の生産などバリューチェーンの上流で生まれた価値が中心であった。それに対して，中流において一次産品の加工度を高め，下流の需要に合わせて供給できるよう，国内で関連産業を振興し，輸出品の付加価値を高める取り組みが行われている。輸出産品に関わるバリューチェーンにおいて，ラテンアメリカの企業が関わる範囲を増やすことで，各段階で得られる付加価値を

図9-2　鉱物資源のバリューチェーン（%の数字は金属の割合）



（出所）JOGMEC鉱業基礎情報を参考に筆者作成。

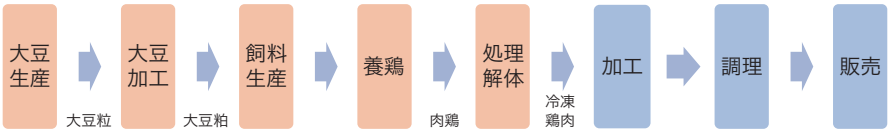
取り込もうという戦略である。

たとえば鉱物資源では加工度を高めた輸出に取り組んでいる。図9-2に示したとおり，鉱物資源のバリューチェーンにはいくつかの段階がある。多くの途上国は探鉱・採掘・選鉱を国内で行い，鉱石に占める金属の割合を0.1 ～ 2%から20 ～ 35%へと高めて精鉱として輸出する。そして先進国の企業が輸入した精鉱を製錬し，地金（金属の割合が99%）を生産することが多い。主要な銅輸出国であるチリとペルーの銅輸出を比べると，チリは輸出額の半分程度を銅地金が占めており，国内で加工度を高めている。一方ペルーは銅地金が輸出額の2割程度にとどまっており，国内で付加価値を高める余地が大きく残されている。

また，近年バッテリーの原料として需要が高まっているリチウムは，ラテンアメリカではチリ，アルゼンチン，ボリビアが輸出国となっている。このうちボリビアは，国有企業のボリビア・リチウム公社（YLB）が採掘を手がけている。現在は炭酸リチウムなど原料として輸出しているが，将来は国内でリチウムイオンバッテリーを製造して輸出することを目指している。

農産物でも高付加価値品の輸出が増えている。1990年代末からブラジルやアルゼンチンなどの南米諸国で大豆やトウモロコシなどの穀物生産が増加し，現在は北米と並ぶ世界最大の穀物産地となっている。両国はその多くを穀物として輸出しているが，同時に付加価値を高める取り組みも進めている。アルゼンチンの場合，大豆粒として輸出するのは全体の4分の1で，残りは搾油加工して，食用油である大豆油や飼料の原料となる大豆粕として輸出している。ブラジルの場合，大豆は粒としての輸出の方が多い。しかし国内産の大豆やトウモロコシを原料とした飼料でブロイラー（肉鶏）を生産し，冷凍鶏肉として世界中に輸出している（図9-3）。さらに中東などに自社の加工工場を建設し，ブラジル産食肉を使った加工品の製造・販売も手がけている。

図9-3　穀物・畜産物のバリューチェーン



（出所）筆者作成。

このほかに高付加価値の一次産品輸出の例として挙げられるのが，生鮮の野菜・果物，切り花などの輸出である。これらの農産品は加工されておらず，それ自体の付加価値は高くない。しかし先進国の国内産地が供給できない端境期に新鮮で品質の高い商品を安定した量と価格で提供することで，大きな価値を生んでいる。そのためにラテンアメリカの生産者や輸出企業は，市場の需要に関する情報を収集し，先進国の大手スーパーマーケットと売買契約を結び，収穫後に短時間で届けるための物流網を整備し，生産や加工に関する情報を小売段階まで維持（トレーサビリティの確保）する仕組みを導入している。このようなバリューチェーンを構築することで，価値の高い農産物の輸出を増やしている。

◉学習の課題

振り返ってみよう　20世紀のラテンアメリカが，一次産品輸出によって持続的な経済成長を達成することができなかった理由を説明してみよう。

議論してみよう　ラテンアメリカ諸国は一次産品輸出経済の問題点をどのように克服しているか，それは成功しているか，具体的な例を交えて議論をしてみよう。

調べてみよう　ラテンアメリカの産業クラスターの事例を研究した次の本から農林水産業の事例を選び，発展の過程や今後の課題についてまとめてみよう。

田中祐二・小池洋一編 2010.『地域経済はよみがえるか――ラテン・アメリカの産業クラスターに学ぶ』新評論. 第Ⅱ部チリのワイン（10章），メキシコのトマト（11章），コロンビアの切花（12章），チリのサケ（14章）。

◎さらに学ぶための参考文献

アセモグル，ダロン，ジェイムズ A.・ロビンソン 2016. 鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか――権力・繁栄・貧困の起源（上下）』早川書房

メキシコやペルーなどラテンアメリカの事例も豊富に交えながら，政治や経済の制度によって途上国が貧困から抜け出せないことを明らかにしている。

〔引用文献〕

〈日本語文献〉

アセモグル，ダロン，ジェイムズ・A.・ロビンソン 2016. 鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか――権力・繁栄・貧困の起源（上下）』早川書房.

宇佐見耕一・小池洋一・坂口安紀・清水達也・西島章次・浜口伸明 2009.『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社.
岡田勇 2015.「ラテンアメリカにおける石油・天然ガス部門の国有化政策比較――1990 ～ 2012年の主要生産国についてのパネルデータ分析――」『アジア経済』56（3）3-37.
西島章次・小池洋一編 2011.『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房.
星野妙子編 2007.『ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論――構造と戦略』アジア経済研究所.

〈外国語文献〉
Armendáriz, Beatriz and Felipe Larraín B. 2017. *The Economics of Contemporary Latin America.* Cambridge, MA: MIT Press.
BP 2021. Statistical Review of World Energy.
FAOTAT.
USGS 2021. Mineral Commodity Summaries 2021.

（清水達也）

©Tatsuya Shimizu 2024
本書は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際」の下で提供されています。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja